

# 【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

## 1. 団体情報

企業・団体名	株式会社okicom
--------	------------

## 2. 申請内容

### （1）2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
<p>* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）</p>	<p>2030年のあるべき姿の実現へ向けて取り組むゴール * SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。</p>
<p>弊社のビジョンである「ITの力で地域経済の発展と持続可能な社会実現を目指す」は、SDGsの達成を目指すものであり、社員一人ひとりが業務を行う上で自覚し、それぞれの職務を全うすることでSDGs達成を目指す。 弊社が立ち上げた「沖縄DXプロジェクト」を展開し、今後2年間でIT技術を活用しながら、伝統工芸の普及、ゴミを出さない循環型ビジネスモデルの構築を行う。</p>	

### （2）今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組		おきなわ SDGsアクションプランとの関係性			関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）			
	概要	分類 * 任意の箇所は、プルダウンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標	関連するSDGsターゲット			* 連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	* 補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 (2023年度)
1	沖縄DXプロジェクトにおける、琉球びんがた産業の発展に向けた知財活用、及び商品開発の推進	経済	必須	優先課題 ⑤	⑤-2 情報通信産業が稼げる産業へと変革し、産業DXを支えるパートナーとして、沖縄の産業の持続的発展に寄与することを実現する。	8.5 11.4 12.b	・琉球びんがた普及伝承コンソーシアム	* 補足事項等があれば記入する。	ライセンス事業案件数	3	15
2	沖縄県内の大学/高校/中学生向けにIT領域を活用したSDGsに関する講話の提供	社会	必須	優先課題 ③	③-2 時代に対応し、生きる力を育む、多様な学びの環境の形成を実現する。	4.1 4.3	・ケイオパートナーズ ・中小企業家同友会 ・各産学連携協議会	* 補足事項等があれば記入する。	講話回数	0回	10回
3	バガスアップサイクルプロジェクト普及展開	環境	必須	優先課題 ⑦	⑦-2 持続可能な消費・開発、自然と調和したライフスタイルの形成、廃棄物削減などによって資源循環型の社会を実現する。	12.2 12.4 12.5 12.6	株式会社BAGASSE UPCYCLE	* 補足事項等があれば記入する。	レンタル数	150着	3000着

上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）

4	沖縄DXプロジェクトにおける、泡盛の排水処理活動	環境	任意	優先課題 ⑤	⑤-2	情報通信産業が稼げる産業へと変革し、産業DXを支えるパートナーとして、沖縄の産業の持続的発展に寄与することを実現する。	6.a 6.b 9.4 12.4 12.6	Watasumi		受注案件数	1件	5件
5	脱炭素経営の推進	環境	任意	優先課題 ⑥	⑥-2	2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったクリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、災害に強い島しょ型の脱炭素社会に向けた基盤形成を実現する。	7.1 7.2 7.3 12.4	・株式会社パーマネット ト ・一般社団法人沖縄環境科学センター		CO2排出量	169.6 t-CO2	155.6 t-CO2

**(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須**

各活動・取組に関する詳細		
*各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。		
取組 1	取組の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人 琉球びんがた普及伝承コンソーシアムを設立し、会員企業と共同し琉球紅型の魅力を全世界に広める取り組みや、著作権問題や後継者問題などの課題解決に取り組んでいる</li> <li>okicomが実質的な運営主体となり、人的リソース、必要に応じた資金的リソースを提供している。</li> </ul>
	取組において、現時点で実施/決定していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス事業 ・普及販売事業 ・技術伝承事業 ・知財モニタリング事業を展開している</li> <li>現段階で、職人/県内業界に対しては、工房数ベースの推定シェア：16%、職人数ベースの推定シェア：38%、付加価値ベースの推定シェア：50%以上</li> </ul>
	取組において、今後予定していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルでの資産価値を高め、有形無形の文化を未来につなげ、産業として活性化させる</li> </ul>
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在受注案件数は堅調に推移しているが、情報発信チャンネルの増加等、未だ取り組めていないマーケット展開を行うことで、年間案件数が2年後には15件へ増加出来る見込みとなる</li> <li>コンソでは、特に琉球びんがたの知財活用にフォーカスし、その活動に取り組んでいる為、ライセンス事業に関連するKPI設定としている。</li> </ul>
	取組を推進する体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球びんがた普及コンソーシアム（弊社新規事業企画部参画）</li> </ul>
取組 2	取組の詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>弊社が行っているITを活用したSDGs活動について、資料や体験ツールを構築し、大学生～中学生向けへ展開を行う。若年層からSDGsの意義を理解し、具体的な取り組みを発信する</li> </ul>
	取組において、現時点で実施/決定していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、関連企業/団体からの学生向け講話依頼が年間10～20件程依頼があり、IT領域や社会人視座での講話を行っている</li> </ul>
	取組において、今後予定していること	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の講話内容をSDGs講話コンテンツとして学生へ提供する</li> </ul>
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在も講話依頼を多数頂いているので、内容を変更する事で回数実施が可能と考えている</li> <li>関連して弊社社員のSDGs知識も深め、よりよい講話内容を模索する</li> </ul>
	取組を推進する体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手社員を中心に講話チームを構築する</li> </ul>

取組 3	取組の詳細	・株式会社BAGASSE UPCYCLEを設立しかりゆしの搾りかす（バガス）を利用した循環型経済ビジネスモデルの構築
	取組において、現時点で実施／決定していること	・かりゆしウェアのシェアリングサービスを展開
	取組において、今後予定していること	・現在の顧客は観光客向けだが、ホテル業界やウェディング業界へ提案を予定している ・Product Market Fitの工程を、良い形で進めており、市場へのブランド浸透及び、RFIDによるウェア管理の導入(2023度実証実験を終了し、即時実装予定)などのDXを進めることで、収益性を高めたい。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	・マーケット体制が十分ではなかったが、新規人材を採用したことによる企画力/営業力が向上しており、目標値に到達出来る見込み ・現状、マーケットシェア1%も取れていない一方で、22年度60着、23年度250着、24年度1090着と、着実に事業成長を遂げている。
	取組を推進する体制	・株式会社BAGASSE UPCYCL（弊社新規事業企画部参画）
取組 4	取組の詳細	・既存の廃水設備は大型かつ高価なため、中小規模の泡盛メーカーは廃水を畑へ散布して対応しているなど、多くの課題を抱える製造業の廃水問題への取り組みを行う
	取組において、現時点で実施／決定していること	・OIST研究機関から派生したWatasumiと共創し排水処理システム構築に向けて実験を開始している
	取組において、今後予定していること	・排水処理システムをサブスク型で展開を予定
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	・現在の開発段階においては受注案件数をKPIとしたい
	取組を推進する体制	・新規事業企画部・システム開発部 ・Watasumi
取組 5	取組の詳細	・2050年までのカーボンニュートラルの達成を目指し、脱炭素経営に関して、Scope 1 及び 2 の算出を行い、SBTへの登録を行うと共に、CO2排出量の削減に取り組む。 ・利用する電力に関しても再エネ使用に切り替える
	取組において、現時点で実施／決定していること	・環境コンサルティング会社との契約を締結し、9月・10月におけるScope1/2の算出を行う ・2023年度の実績値として、Scope1：117.4t-CO2、Scope2：52.2t-CO2、合計169.6 t-CO2 ・再エネ100Re action及び、SBTに登録を行う。米国の規格であるB-corpの取得を行う
	取組において、今後予定していること	・上記決定事項を推進する ・CO2削減の具体策として、営業車両のEVへの切り替え、社屋への太陽光パネルの設置、社員へのEVの奨励（EV購入手当の検討）
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	・CO2削減に関して、年間4.2%をKPIとする。2025年のCO2排出量は $169.6 \times 0.958 \times 0.958 \approx 155.65$ （t-CO2）以下となる想定。 ・妥当性：SBTに準拠した水準である。・計測方法は年度ベースでScope1/2を算出、モニターを行う
	取組を推進する体制	・役員にて脱炭素推進チームを編成、推進を行う